

新除草・調節剤

注意する。④冬期の低温期や出穂期以降など、雑草の生育が停止している場合には、効果が劣ることがあるので、使用をさける。⑤イネ科作物には薬害がでるので、周囲にイネ科作物がある場合は、薬液が飛散しないように注意して散布する。⑥本剤は水溶剤であり、少量の水で糊状にねると溶けにくくなるので、所定量の水に直接加え、充分かきまぜ、完全に溶かしてから散布する。⑦吸湿性があるので、開封後の薬剤は、必ず密封して、乾燥した冷暗所に保管する。

バスファミン® 水和剤
PAC・IPC 除草剤

(取扱メーカー) 北海三共株式会社

対象作物：たまねぎ(春播移植栽培)。

対象雑草：畑地一年生雑草。

成分・作用特性：本剤は、PAC：1-フェニル-4-アミノ-5-クロルピリダゾン-6……20%とIPC；イソプロピル-N-(3-クロルフェニル)カーバメート……20%の混合剤で、剤型は水和剤である。

本剤は、西ドイツBASF社開発のPACと、古くから畑作・園芸作物に使用されているIPCの混合剤で、PACは雑草の発生前から発生初期に有効で適用雑草幅が広く、IPCは土壤処理効果向上のために配合されている。

たまねぎの移植活着時期は、雑草の発生前から発生初期に当たるため、土壤処理効果と雑草処理効果の双方が要求され、本剤はこの双方を兼ね備えた薬剤である。

また、スベリヒユ・タデ・ハコベなどに対し

高い殺草効果を示し、移植活着後の処理で安全に使用できる。

使用方法：登録されている使用基準は、次の通りである。

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量 (g/10a)	使用法
たまねぎ 〔春播移植栽培〕	畑地一年生雑草	移植活着後 雑草発生前 ～発生初期	400 ～600	100ℓの水量(10a当り)で土壤全面散布

使用時期については、この時期が主体となるが、中耕除草後に使用したり、他剤との体系処理など、種々の活用方法がある。

使用上の注意：①活着が不十分であったり、軟弱徒長苗を植えた場合には、初期生育の劣ることがある。②高薬量使用後の降雨や極度の砂質土壤に使用の場合、薬害を生ずることがある。③雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、雑草の稚幼期に使用する。④高温時に使用すると、IPCの気散が多く効果が劣るので、夕方涼しい時間に使用する。⑤土壤が乾燥していると、土壤処理効果の低下により効果が発揮できないので、適湿の時に散布する。⑥ツユクサやイネ科の雑草が優占する畑では効果が劣るので、高い方の薬量を使用するか、他の薬剤との体系処理で使用する。⑦他の作物に薬液がかかると薬害がでるので、近くに他の作物がある場合は薬液がかからぬように注意する。

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤・生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規定によりお支払いいたします。